

足踏みミシン

〽 沢掟島出身の小川 幸子さん 〽

小川幸子さんは、沢掟島薬取村に住み、お父さんの義雄さん、お母さんの八重さん、末っ子の幸子さんを含め五人きょうだいの七人家族でした。お父さんは薬取の水産ふ化場の場長をされていました。

幸子さんは生まれたばかりだったので島の記憶はないようですが、お姉さんに聞いた話によると、昭和二十二年の引き揚げ時にソ連側から技術者としてお父さんだけは残れと指示されたそうです。その後、同居していたソ連の将校が上部に掛け合ってくれて一緒に引き揚げることが許されました。引き揚げ当日の朝霧の中、お父さんが白い馬にまたがって現れたときには、近所の皆さんも喜んでくれたそうです。

このミシンは、お母さんが紗那からお嫁にきたときに嫁入り道具として持ってきたもので、とても大切にされており、家族の服などを手作りしていたほかロシア人から頼まれて軍服やドレスなども作っていたそうです。引き揚げの際には、バラバラに分解して布団にくるんで持ってきたとのこととです。

お母さんは平成十四年に亡くなりましたが、亡くなる十年くらい前までは大切にこのミシンを使われていたそうで、幸子さんの学芸会用の衣装や高校の時の制服をつくってくれたことなどが大切な思い出ですと話されていました。



お母さんの作ってくれた服を着る小学生の頃の幸子さん



【追記】

このミシンは根室市北方領土資料館に展示されています。